第3種郵便物認可

長期化視野 封じ込め促す

WHO、感染国急増で動く

中国で最初に新型コロナウイルスの感染が確認されてからわずか3カ月で、感染者は114の国・地域の計約11万8千人、死者4291人（11日現在）にまで広がった。世界保健機関（WHO）は11日、世界的な流行を意味する「パンデミック」と認定した。流行の長期化を見据え、各国に対策の強化を訴えた。

新型コロナ「パンデミック」

時時刻刻

新型コロナウイルスをめぐり、WHOはパンデミックという表現を使うことに慎重だった。テドロス事務局長は常々「今、必要なのは恐怖でなく、連帯だ」と訴えており、パンデミックと呼ぶことで必要以上の恐れやパニックを招きたくないとの思いをにじませてきた。

今回、姿勢を転換したのには二つの理由がある。

一つは、認めざるをえない感染の急速な広がりだ。中国で新たな感染が下火になり、封じ込めに自信を持ち始めたころ、イタリア、イランなどが他国への感染拡大の起点になり、移動の自由が大きい欧州では感染者が出た国が一気に増えた。感染者がいない国も臨戦態勢をとる状態になり、外部の専門家からは既にパンデミック状態だとの指摘も出ていた。

パンデミックと認めない姿勢を続ければ、危険な現状に目を背けていると受けとられ、国際機関として信用を失いかねなかった。

もう一つは、各国の対策強化のきっかけにしたいという意図だ。中国、韓国が隔離を徹底して新たな感染者を減らし、WHOはパンデミックでも「制御が可能」と強調する。11日の記者会見で、WHOの緊急対応責任者マイク・ライアン氏は各国を叱咤激励した。

「感染していそうな少数の人しか検査をしないのであれば、前に進めない」「感染拡大と闘う早い段階で、感染者に接触した人の特定をあきらめようとした国もあった」「いくつかの国は市民とうまく意思疎通ができていない」

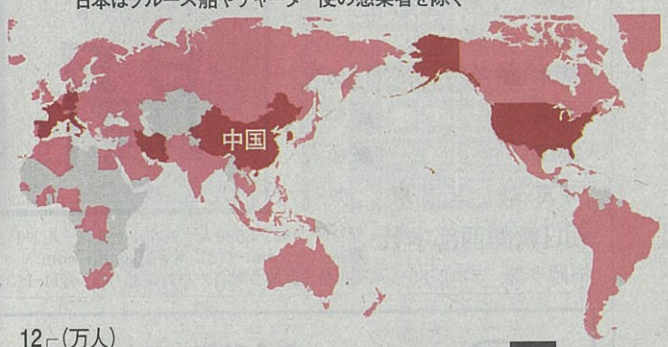
国名の名指しは避けたものの、情報提供や対策の実行を加盟国の保健当局に大きくゆだねているWHOが、こうした批判を発信するのは極めて異例だ。ライアン氏は「100％やった国はない。WHOもそうだ」と述べ、さらなる対策強化を呼びかけた。

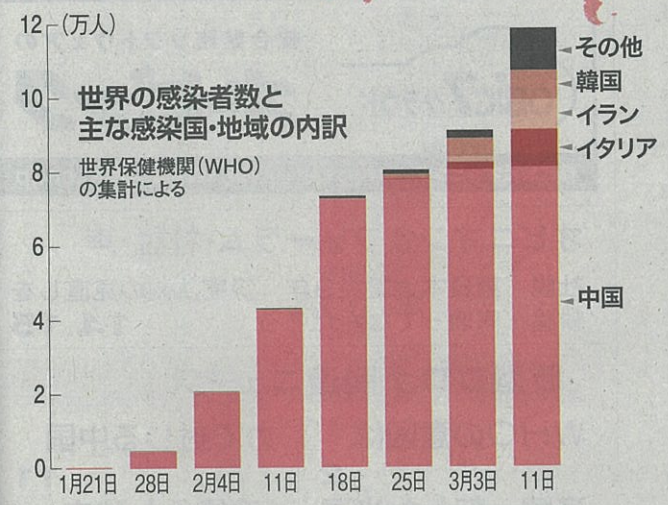
（ジュネーブ＝吉武祐）

新型コロナウイルスの感染が確認された国と地域

■感染者数が1千人を超えた国

日本時間12日、午後7時現在。米ジョンズ・ホプキンス大学システム科学工学センター（CSSE）の集計による。日本はクルーズ船やチャーター便の感染者を除く





日本「流行期まだ」

WHOのパンデミック認定の国内対策への影響はどうか。厚生労働省の担当者は「求められている具体的な対応は変わらない」と話した。安倍晋三首相は12日午前、記者団に「これまで以上に国際社会と協力し、対応を強めていきたい。警戒を緩めることなく、必要な対策は躊躇なく決断して実行していく」と述べた。

政府は国内ではまだ流行期に入っておらず、何とか持ちこたえているという認識だ。政府が2月25日に示した基本方針では、患者の増加の速度を遅らせ、流行規模を抑えることに力点を置く。小規模な患者集団クラスターからの感染拡大を防ぐため、スポーツ・文化イベントの自粛や学校の臨時休校を要請。国会では現在、首相が緊急事態を宣言できる、新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正案を審議中だ。

そうした中でも感染者は増え続けている。大型クルーズ船の乗船者などを除くと、3月12日までの感染者は600人を超え、1週間で2倍に増えた。

長崎大の山本太郎教授（国際保健学）は「ウイルスが広がる前につぶせば根絶できたかもしれないが、恐らくその段階は過ぎている。今後少なくとも国民の6～7割の人が感染する恐れがある。免疫を持つ人が増える中で収束していくのではないか」とみる。「流行を遅らせることで重症者をきちんとケアできて死者を減らせ、ダメージを最小限にできる。退院した人や症状がないままウイルスが排除された人の方がはるかに多い。正しく恐れることが大切だ」と話す。

対策の方向性 変わらぬ

視点

WHOが新型コロナウイルスの現状をパンデミックと認定したことで、ウイルスが世界中に急速に広がり、闘いが長期にわたることが改めて印象づけられた。ただ、WHOはウイルスの感染力は季節性インフルエンザより弱いとみている。インフルエンザのパンデミックは「感染が制御できない」ことを前提としており、今回の認定の意味合いは従来とは異なる。

感染をめぐるいまの状況は、国や地域によって差がある。

武漢市でウイルスが広がり始めた中国での初期対応や、中国に擁護的ともいわれるWHOに批判的な見方も強い。とはいえ、最近のデータを信頼する限り、「武漢封鎖」などを推し進めた中国での発症者は1月後半から2月初めをピークに大幅に減っている。

一方、欧州疾病予防管理センターはイタリアなどでの拡大を受け、今月2日の時点で「ウイルスの封じ込めをめざす対策は、もはや効果的ではないかもしれない」との見方を示していた。アフリカ諸国など、医療や保健の環境が十分に整っていない地域でも多くの人がリスクにさらされている懸念がある。

日本の状況はどうか。

感染経路がはっきりしない例もあるが、これまで判明した感染者の多くは、どのような場でウイルスが伝わったのかが見えるクラスターとして発生している。大勢の人が集まる機会を減らすなどしてクラスターの連鎖を絶つことで、ウイルスの爆発的な広がりを抑えることにまだ期待がもてる段階だ。中国でも、家族内などのクラスター対策に力を入れ、拡大を防いでいる。

新型コロナウイルスには未知の点も多い。新たな科学的データに応じて随時見直し、暮らしへの影響にも配慮しながら、感染者を増やさず、重症の人が亡くなるのを防いでいく――。対策の方向性は、WHOの認定があってもなくても変わらない。

（編集委員・田村建二）